

IBAだより

第18号

《茨城県吹奏楽指導者協会》

令和5年9月5日発行

発行人 茨城県吹奏楽指導者協会会長 梶原 征剛
事務局 茨城県水戸市緑町1-10-26 島田 博正

「ソロコンテストいばらき」で思うこと 『暗譜について』



茨城県吹奏楽指導者協会 会長 梶原 征剛

私は「ソロコンテストいばらき」の審査員を長らく務めてまいりまして、皆さん方の演奏を聴いた感想を、これまで「IBAだより」に載せてきました。そして、今回は楽曲の暗譜について少しお話をしたいと思います。

演奏にあたって暗譜をすることは、もちろん、義務ではありません。しかし、私はできれば暗譜をお勧めいたします。

その理由の一つは、暗譜をするためには練習量が必然的に増えることで、演奏に余裕ができて、より豊かな音楽の表現が可能になるからです。また、ステージ上で演奏者の見栄えが良くなるのも大切です。

そこで、暗譜をするまでの一つの例を、ここに挙げてみたいと思います。

まず、その手始めは、音を出す前に楽譜に印刷されている音符や休符、また、発想記号などの意味を理解するために楽譜を何度も良く見ることに。すなわち、譜読みから始めることを忘れないでください。

次に、実際に音として表すわけですが、最初の段階では、楽曲（楽譜）の中身を断片的に見るのではなく、鳥瞰図（全体を高い位置から見る）的におぼろげながらも良いから、楽曲の全体像をつかむことが大切です。

練習を重ねるにつれて、全体の骨組み（構成）が見えてきたら、自分の不得手な部分や技術的に難しいところを取り出して重点的に練習を積み、完成に近づくための努力を怠らないでください。そして、さらに、練習を続けることで、それまでは、それぞれが一つひとつの部分（パーツ）にすぎなかった旋律（フレーズ）が、不思議なことに、ある時、思いも寄らず、曲全体がつながる瞬間が必ずやってくるものです。

ここまで来れば完成も間近でしょう。その時の感動はいつまでも忘れることはできません。

結論＝練習は嘘をつきません。

ここで私が申し上げたいことは、この一連の練習過程は、決して、暗譜をするための練習ではありません。練習に練習を重ねた結果、気が付いたら自然に暗譜ができていた状態となるのが一番望ましいのです。

このようにして、練習を何度も繰り返して暗譜した楽曲はもう忘れることはないでしょう。そして、これからも

自分の貴重な財産（レパートリー）となって残ることは間違いありません。 （茨城大学 名誉教授）

令和4年度 受賞者の声



第25回 ソロコンテストいばらき《県大会》げんでん音楽大賞受賞者

♪ソロコンテストに参加して 水戸市立三の丸小学校（現在は茨城キリスト教学園中学校） 藤井 薫乃

私は、小学校5年生の時に初めてソロコンテストに出場しました。その時は練習時間が短く、満足できる演奏ができなかつたので、今回は春に曲を決めてじっくり練習することにしました。そのおかげで、吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストにもしっかり取り組みつつ、ソロコンテストへの準備ができたと思います。そして、本番前にも発表会などのステージに立つ機会があり、リハーサルのような経験が積めたことが自信にも繋がりました。

昨年のソロコンテストは動画審査だったので、他の参加者がどんな演奏をするのか分からなくて不安でしたが、とても良い結果が残せたので本当に嬉しいです。指導して下さった先生、応援してくれた友達や両親に感謝します。今年は、中学生の部での参加になります。さらに上を目指して頑張ります。



♪心に残る演奏を... 水戸市立千波中学校 赤岩 千咲姫

この度、ソロコンテストいばらきに出場し「げんでん音楽大賞」を受賞できた事、大変嬉しく思います。

1年生で出場したソロコンテストでは思うような結果を残すことができませんでした。それからの1年間、ソロコンテストでの金賞を目標に、自分のメンタル、体力と向き合いながら、一生懸命練習に励みました。選曲は、大切にしたい「表現力」を最大限に生かせるドニゼッティのフルートソナタを選びました。

本番では満足のいく演奏ができ、初めて心の底から楽しいと感じることができました。また、関東甲信越大会で演奏できる機会もいただきました。

今後もこの経験を糧に、人々の心に残る演奏を目指し、大好きなフルートを演奏し続けていきたいです。



♪音楽を続ける意義 茨城県立水戸第一高等学校 大内 悠生

この度、「げんでん音楽大賞」をいただくことができ、大変光栄に思います。

この1年は自分と音楽との向き合い方について深く考えた1年でした。高校

に入り勉強も音楽も上の存在がいることを痛感し、音楽を続ける理由を見出せなくなった時期もありました。しかし、多くの方々との出会いと支えで、演奏技術だけでなく人として大切なことを学ばせていただけました。

僕はサクソと出会って7年目になりますが、僕の生活のそばには常に吹奏楽があり、そしてサクソがありました。学生として音楽と関わる残り1年になりますが、お世話になった方々へこれまでの感謝の気持ちを音にして還元できるように精進します。

JBA 関東甲信越支部「第21回中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」清水大輔賞受賞者

♪『感謝と共に』 明秀学園日立高等学校 小泉 香奈

「ありがとうございました」と、ソロコンテストを終えて私は心から多くの方にとっても感謝しました。

今思い返すと小学生の頃からソロコンテストに出場し、高校1年までに関東甲信越支部大会で演奏させてもらうチャンスを3回もいただきましたが、高校1年で参加した茨城県大会が今までの中で一番緊張しました。

県大会の演奏を終え、緊張がとけてホッとした時には色々な思いがこみ上げてきて、気付いた頃には自然と涙が溢れていました。その涙は、周りの人の評価を気にしていた事や100%の演奏ができなかった後悔などの涙だったのかと思います。

県大会では「げんでん音楽賞」という次のチャンスを与えていただけたので、次こそ悔いなく演奏できるよう、フルートの先生や顧問の先生など沢山の方々からのアドバイスをもとに、大会に向けて練習に励みました。

関東甲信越支部大会では沢山練習したことが自信となっていたのか、茨城県大会より緊張せず楽しく演奏することができました。(100%までは辿り着きませんでした...)演奏終了直後、茨城県の役員さんより「凄く良い演奏でした。これからも応援しています」とお声掛けくださったことを鮮明に覚えています。

全国大会には出場できませんでしたが、このような私に「清水大輔賞」という貴重な賞をくださった事、とても感謝しております。高校生初のソロコンテストでこのような賞を受賞できたのは、自分の力だけでは叶うことのないことです。いつも感覚でフルートを吹いている私を見捨てず声掛けをしてくださったフルートの先生。自由に演奏する私にピッタリ合わせて伴奏してくださる伴奏の先生。そして、いつも近くで支えてくれる両親。他にも沢山の方々を支えられたおかげでいただけた賞だと思います。

次はもっと良い演奏をして皆さんに恩返ししがたいです。常に高い志を持ち感謝を忘れず、練習に励んでいきたいと思っています。このような私ですが、これからも応援よろしく願いいたします。



JBA 関東甲信越支部「第21回中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」

JBA 関東甲信越支部茨城県部会 事務局長 古井 忍

令和5年2月19日(日)昭和音楽大学ユリホールで行われた関東甲信越支部大会で、中学生部門に赤岩千咲姫さん(FI千波中)、矢川紗耶子さん(FI藤代南中)、神保朋花さん(CI取手二中)、菊地心春さん(CI江戸川学園取手中)、高校生部門に大内悠生さん(A.Sax水戸一高)、吉原和希さん(A.Sax下妻一高)、小森茅愛さん(A.Sax日立一高)、小泉香奈さん(FI明秀学園日立高)、小学生の特別演奏として西墻芽咲さん(FI千波小)が茨城県代表として出演され、音楽・技術両面において日頃の練習の成果を発揮されました。高校生の部では、明秀学園日立高等学校の小泉香奈さんがフルートの音色を十分に響かせて、審査員清水大輔賞を受賞されました。

この3年間、新型コロナ感染症によってさまざまな規制を受けてきましたが、早く以前の状態に戻って出演者の皆さんが伸び伸びと演奏される日がくることを願っています。

< 令和5年度ソロコンテストいばらき日程 >

○ソロコンテスト一次審査 R5.12/9(土)・10(日)・16(土)・17(日) ひたちなか市文化会館他

○ソロコンテスト県大会 R6.1/20(土)・21(日) 東海文化センター(決定)

昨年度の一次審査は、県内5地区から466名の参加があり、3日間の審査で実施することができました。

県大会は、会場を昨年度同様東海文化センターとしました。コロナウィルスの感染状況を踏まえて、予め準備していただいた音源(録画)データによる審査は1名のみで、他は全て生演奏での審査を実施することができました。また、観客は制限しませんでした。表彰式は行わないこととしました。

その結果、例年どおり小・中・高の各部で、皆さん方それぞれが金賞・銀賞・銅賞のいずれかを受賞しました。また、げんでん音楽大賞を小・中・高の各部で各1名が、げんでん音楽賞を小学生4名、中学生5名、高校生5名が受賞しました。

今年度も昨年度を上回る数多くの皆さんが参加され、すばらしい演奏を聴かせてくださることを期待しています。

※CDの処理について

地区担当者にCDを送付する際、一次審査要項をよく確認するようお願いいたします。

※音源(録画)データについて

県大会はステージ演奏を予定していますが、感染状況によっては音源(録画)データによる審査に換える場合も考えられます。ご理解いただきますようお願いいたします。

※IBA だよりは、茨城県吹奏楽指導者協会 (IBA) の HP よりダウンロードできます。

令和4年度 第25回ソロコンテストいばらき 一次審査参加者数・県大会出場状況

	一次審査		県大会	
	参加者数	出場者数	参加者数	出場者数
小学生の部	県東			
	県南	1	1	
	県西	5	2	
	県北			
	県央	8	6	
	計	14	9	
	中学生の部	県東	22	6
県南		68	12	
県西		114	21	
県北		34	7	
県央		92	20	
計		330	66	
高校生の部		県東	15	7
	県南	26	13	
	県西	22	10	
	県北	16	8	
	県央	43	20	
	計	122	58	

「げんでん財団」は

地域文化の振興 ふれあいとゆとりのある

地域社会の発展に寄与します

公益財団法人

げんでんふれあい茨城財団

日本原子力発電(株) 茨城連絡事務所内(水戸市笠原町 978-25) TEL: 029-301-1511